

■藤沢周平（歴史）小説家。40半ばで文壇に登場，端正巧緻ながら，司馬遼太郎とは対照的な目線の低さでファン多数。

ふじさわしゅうへい

金融恐慌・・・1927＝山形県東田川郡黄金村（鶴岡市）で，農家小菅繁蔵・たきゑの次男に生まれる。本名小菅留治。長姉繁美（11上）・次姉このゑ（10上）・兄久治（7つ上）。

海軍軍縮条約1930＝3歳：妹てつ子が誕生。

満州事変・・・1931＝4歳：

国際連盟脱退1933＝6歳：弟繁治が誕生。

帝人疑獄事件1934＝7歳：青龍寺尋常高等小学校に入学。

二二六事件・1936＝9歳：

日中戦争始・・・1937＝10歳：

幼少期から家の農作業の手伝いをし，小学校時代から，あらゆる小説・雑誌の類を濫読していたことが，のちの作品のベースとなる。

大政翼賛会・・・1940＝13歳：尋常科を卒業。郡賞を受賞。黄金村国民学校高等科に進み，

日米開戦・・・1941＝14歳：

・・・・・・1942＝15歳：卒業。山形県立鶴岡中学校夜間部に入学。経書勉強会（松柏会）に参加。昼間は印刷会社や村役場の書記補として働く。

敗戦・・・・・・1945＝18歳：

新憲法公布・1946＝19歳：卒業。山形師範学校に入学。一級上に無着成恭。入寮し，映画館通い始まる。同人雑誌『砕氷艦』に参加。

三大事件・・・・1949＝22歳：卒業し，湯田川村立中学校へ赴任。

朝鮮戦争始・・・1950＝23歳：父が脳溢血で急逝。

独立回復・・・1951＝24歳：『砕氷艦』後継の同人誌『プレリュウド』に参加，詩「みちしるべ」発表。集団検診で肺結核発見され，休職。

テレビ放送始・・・1953＝26歳：俳誌『海坂』に俳句投稿。兄に付き添われ上京し，肺上葉切除の大手術。

自衛隊発足・・・1954＝27歳：手術の予後のため，病院での生活が続くなか，海外小説中心に読書に励み，

55年体制始・・・1955＝28歳：病院内にできた詩の会（波紋）の同人となる。病院外へ散歩を許可される。

国連加盟・・・・1956＝29歳：患者自治会のサークル誌に寄稿し，自治会の機関新聞の編集などしながら，作家生活の素地をつくって，

なべ底不況・・・1957＝30歳：退院。郷里での教員就職先無く，業界新聞社を倒産などで転々としながら，生活不安に悩む。

美智子妃・・・・1959＝32歳：同郷の三浦悦子と結婚。

安保闘争・・・1960＝33歳：日本食品経済社に入社，編集に携わり，生活ようやく安定。

TV宇宙中継始1963＝36歳：長女展子（のちエッセイスト）が誕生。（読売新聞）短編小説賞で「赤い夕日」が選外佳作。妻の急逝に衝撃，

東京リベンジャ・・・1964＝37歳：ヒロインの悲劇を扱う時代小説を書いて，『オール読物』新人賞に応募し始め，

大学紛争始・・・1965＝38歳：ペンネームに初めて藤原周平を使用。

全共闘ビーク・・・1969＝42歳：高澤庄太郎の次女和子と再婚。

大阪万博・・・1970＝43歳：妹てつ子が死去。

ドルショック・・・1971＝44歳：*『深い海』を発表し，『オール読物』新人賞。受賞後第1作『囃』発表。

日中国交回復1972＝45歳：『黒い縄』が直木賞の候補作品となり，

石油ショック1973＝46歳：*『暗殺の年輪』で直木賞受賞し，最初の作品集『暗殺の年輪』刊行。

角栄金脈辞任1974＝47歳：母が死去。「又蔵の火」「闇の梯子」。退社し，本格的作家活動に入り，取材旅行をしつつ，

ケアンズ事件1975＝48歳：檻車墨河を渡る。『毎年多くの作品を発表しては，作品集を刊行して行く。』

田中角栄逮捕1976＝49歳：『冤罪』『暁のひかり』『逆軍の旗』『竹光始末』『時雨のあと』『義民が駆ける』。『オール読物』新人賞選考委員。

JALハイジャック・・・1977＝50歳：『闇の歯車』『闇の穴』『喜多川歌麿絵草紙』，

成田衝突・・・1978＝51歳：『長門守の陰謀』『春秋山伏記』『一茶』。『用心棒日月抄』あたりから，ユーモアを持った作風が変わり，

革新大敗北・・・1979＝52歳：『雪明かり』『神隠し』『消えた女』『回天の門』，

貿易摩擦問題1980＝53歳：『驟り雨』『出合茶屋』『春秋の檻』『孤剣』，唯一の伝奇小説『闇の傀儡師』。『橋ものがたり』，『隠し剣孤影抄』『隠し剣秋風抄』『夜の橋』『風雪の檻』『周平独言』『時雨みち』『霜の朝』などで町人もので短編の秀品を生み，『藤沢周平短篇傑作選』（全4巻）がまとめられる。

中曽根内閣・・・1982＝55歳：『密謀』『漆黒の霧の中で』『愛憎の檻』『雲奔る』『春秋の檻』。自律神経失調症に悩み始め，妻が取材に同行。

デイズ・ユラント・・・1983＝56歳：『白き瓶ー小説・長塚節』連載。「よろずや平四郎活人剣」「人間の檻」「刺客」「龍を見た男」，

・・・・・・1984＝57歳：『海鳴り』，

ジャンボ機墜落1985＝58歳：『白き瓶』『花のあと』『決闘の辻』『ささやく河』『潮田伝五郎置文』，『風の果て』。直木賞選考委員。

バブル始・・・1986＝59歳：『小説の周辺』。『白き瓶』で吉川英治文学賞，

竹下内閣・・・1987＝60歳：『本所しぐれ町物語』，

リクルート事件・・・1988＝61歳：『蟬しぐれ』『たそがれ清兵衛』『市塵』。山本周五郎賞選考委員。

昭和天皇没・・・1989＝62歳：『麦屋町昼下がり』『三屋清左衛門残日録』。*江戸市井の人々を描いて新境地拓いた功績で，菊池寛賞，

ドイツ統一・・・1990＝63歳：『市塵』で芸術選奨文部大臣賞，

ソ連崩壊・・・1991＝64歳：『凶刃 用心棒日月抄』『玄鳥』，

バブル崩壊・・・1992＝65歳：『天保悪党伝』『秘太刀馬の骨』。以後10年かけての『藤沢周平全集』（全23巻）刊行開始となる。

55年体制終・・・1993＝66歳：翌年にかけて『藤沢周平珠玉選』（全9巻）。

自社さ連立・・・1994＝67歳：『半生の記』『夜消える』。朝日賞，東京都文化賞，

オウム事件・・・1995＝68歳：紫綬褒章受けるが，若い頃の手術の際の輸血が原因で肝炎となり，

・・・・・・1996＝69歳：『日暮れ竹河岸』。入退院を繰返し，

金融破綻・・・1997＝70歳：『漆の実のみのる国』。肝不全のため，没した。